

ネット資金調達 信組が仲介

クラウドファンディング

信用組合業界が中小・零細企業を支援するため、インターネット経由で資金を集めるクラウドファンディング(CF)の活用に乗りだした。ユニークな商品を手がける信組の取引先企業を大手CFサイトに紹介する。企業にとっては、資金調達と併せて、多くの人が閲覧するサイトを通じた販路拡大が期待できる。道内でも釧路信組が仲介して水産加工会社の資金集めが始まった。

(東京報道 幸坂浩)

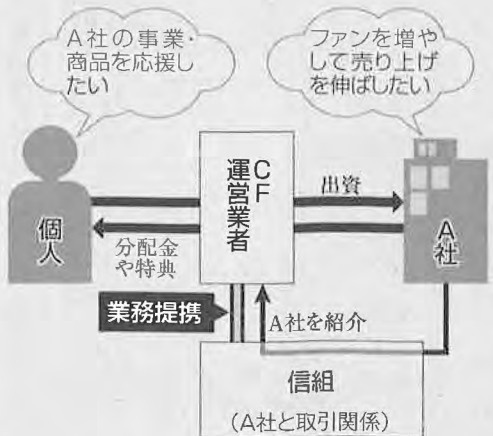
中小支援に新機軸

信組を束ねる全国信用協同組合連合会(全信組連、東京)が6月、CFのサイト運営大手「ミュージックセキュリティーズ(MS、同)」と業務提携し、各地の信組が取引先企業とMSとを仲立ちする仕組みを整えた。

CFは資金を必要とする事業の内容を専用サイトに掲載し、共感した人たちが少しずつお金を集める仕組みだ。企業が資金を求めているだけなら、信組が融資すればよい。CFを活用する最大の狙いは資金を出す人に事業のファンになってもらい、商品の販売増につなげることにある。

信組の取引先には自社で広告・宣伝を十分に行えない中小・零細企業も多い。MSのサイトには、全国の約

信用組合によるクラウドファンディング(CF)活用のイメージ



釧路フィッシュの事業内容を掲載して資金を集めている、ミュージックセキュリティーズのサイト画面

釧路でも「塩さば」増産へ活用

7万人が会員登録しており、商品の魅力を情報発信する宣伝効果が高いと全信組連は判断した。CFを使う場合、信組は融資しない。ただ、CFの活用により取引先が成長すれば、将来の融資拡大につながる。このため、全信組連は各地の信組にCFの活用を呼びかけている。

道内では、釧路信組の取引先である水産加工の釧路フィッシュ(釧路)が、人気商品「塩さば」(ホエー仕込み)の増産資金をCFで12月29日まで募っている。水産加工品が特典として贈られることもあり、目標とする940万円の約45%がこれまでに集まったという。釧路信組は「通常の広告・宣伝には多くの費用がかかる。これからもCFを使い販路拡大を後押ししたい」と話す。

道内ではこのほか、空知商工信組(美唄)も今月、MSと業務提携した。今後、顧客企業にCFの利点を説明し活用を促す。道外でも飛騨信組(岐阜県高山市)が地ビールや地酒のメーカーを支援した例がある。

クラウドファンディング(CF) 群衆(クラウド)と資金調達(ファンディング)を組み合わせた造語。企業などの手がける事業ごとに募集期間と目標金額を設定し、専用サイトで資金の出し手(出資者)を広く募る。ミュージックセキュリティーズの場合、出資者は分配金や特典を受け取れる。分配金は事業の売り上げによって増減するため、当初計画を下回ることもある。